

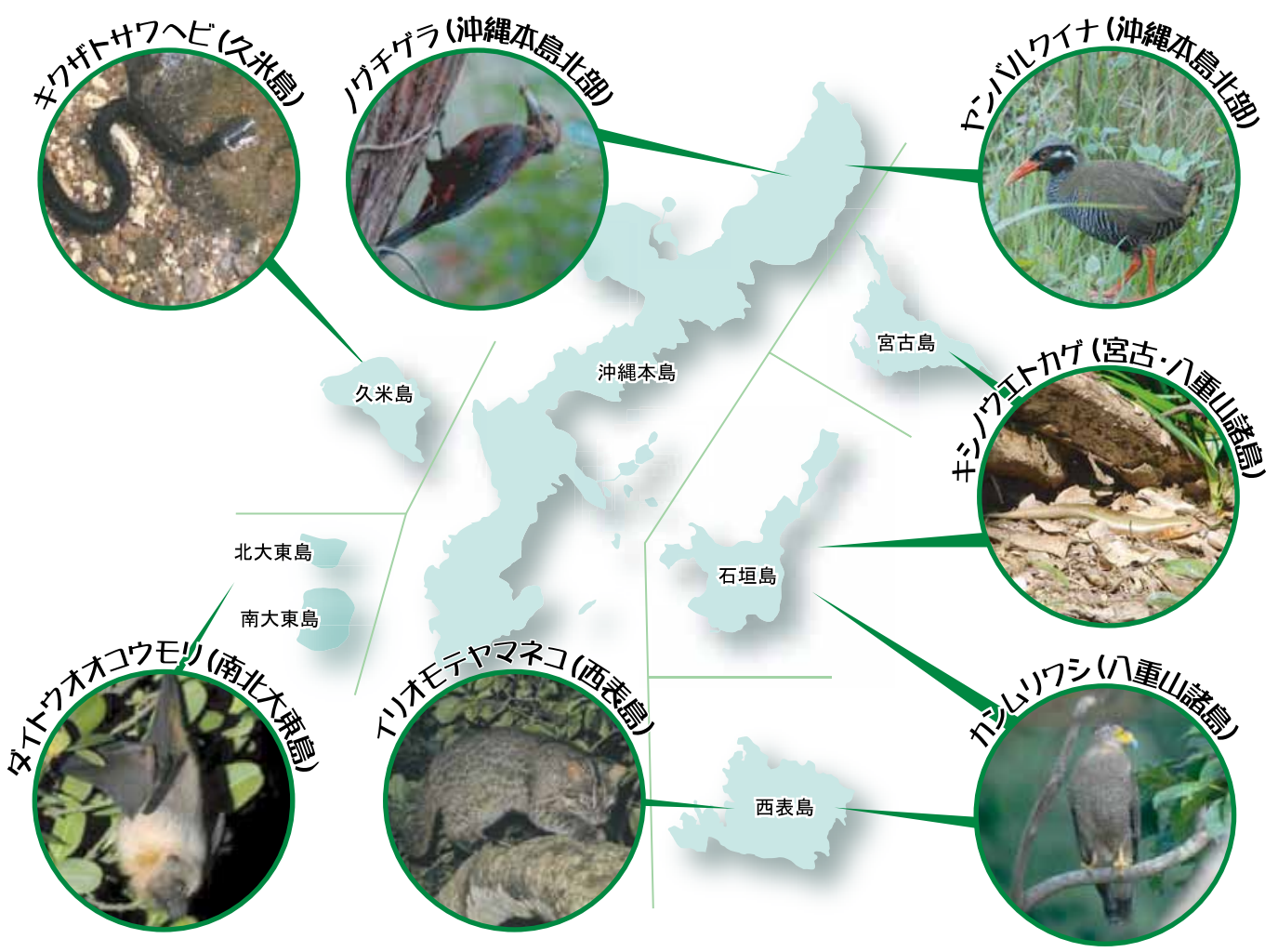


自然共生社会に向けて

世界的に貴重な沖縄の自然を守る ～もしも自然がなくなるとどうなるの?～

世界に誇れる沖縄の自然

大小160の島々には、それぞれの島で独自に進化した生きものが住み、世界でも貴重な自然が残っています。みんながよく知っているヤンバルクイナやノグチゲラは、沖縄の固有種で、世界でただ一つ、やんばるだけに住んでいます。そのため、もしもこの生きものたちが暮らせなくなると、地球上から永遠に消える、つまり絶滅することになるのです。



クイちゃん豆知識

沖繩の絶滅危惧種

世界の40,186種の動植物のうち、約4割の16,118種が絶滅の恐れがあるとされています。沖縄ではオキナワオオコウモリやリュウキュウカラスバトなど19種の動植物がすでに絶滅していて、さらにヤンバルクイナやジュゴンなど1,783種の動植物が絶滅の危機に瀕していると発表されています。

沖縄県には、大小160の島々があり、そのうち40の島々に人々が暮らしています。そして、島々はサンゴ礁にかこまれ、緑豊かな森や林を作り、多くの動物や植物が人々とともに住んでいます。あたり前のように身近にある自然、私たちはこの自然から多くの恵みを受けてきました。沖縄の自然の状況について考えてみましょう。

沖縄の自然がかかえる問題

沖縄の人々は、昔から自然を大切に、多くの恵みを受けて、自然とうまく共生してきました。しかし、近年、私たちの生活を豊かにするための開発によって、生きものの住む場所が少なくなったり、外国から持ち込まれた外来生物に、もともと住んでいる生きものが食べられたり、えさをうばわれたりという問題がおこってきました。

いろいろな開発行為



開発行為には、生活の場を広げるための埋立て、新しい道路や畑を作るための森林伐採などがあります。生きものの住む環境を守るためには、生きものが多く住む場所をさけて開発したり、開発の面積を小さくするなどの工夫が必要です。他にも生きものが住む場所に道路を作ることでヤンバルクイナなどの貴重な生きものが自動車にひかれてしまうことも問題になっています。

◀ 森がけずられた開発現場

外来生物の問題

ハブを退治するために持ち込まれたマングース、さとうきびの害虫を駆除するために持ち込まれたオオヒキガエル、つりを目的に持ち込まれたオオクチバス、ペットとして持ち込まれたグリーンアノールなど、多くの外来生物がもともと住んでいた生きものの生息に影響を与えています。

中でもマングースはやんばるの貴重な生きものを食べていることから、環境省と沖縄県が協力して捕獲作業をおこなっています。



マングース



オオヒキガエル



オオクチバス



グリーンアノール



エコクイズ

沖縄の生きものについてもっと知ろう（正解を○で囲みましょう）

1. ヤンバルクイナやノグチゲラは（ア. 沖縄だけ ○イ. 全国）に住む固有種。
2. もともと沖縄にいなかった動植物を（ア. 在来生物 ○イ. 外来生物）という。
3. 外来生物の（ア. キノボリトカゲ ○イ. グリーンアノール）というトカゲがいる。



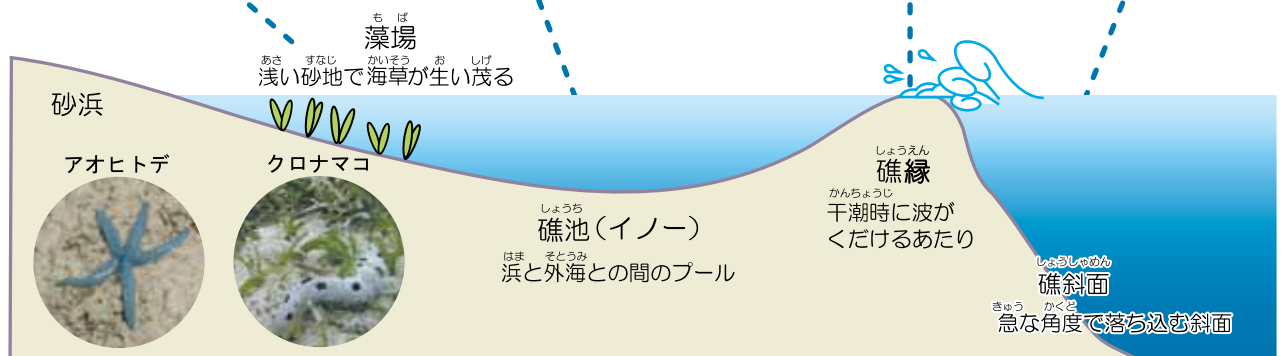
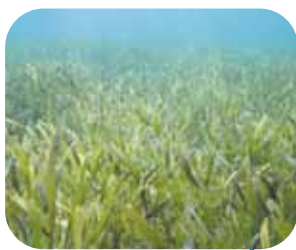
自然共生社会に向けて

美しいサンゴ礁にかこまれた沖縄の海を守る ～サンゴ礁の海はどうしたら守れる?～

世界に誇れる沖縄のサンゴ礁の海

サンゴはイソギンチャクやクラゲの仲間です。サンゴの中でも褐虫藻と共生して、石灰質の骨を作るサンゴは、造礁サンゴと呼ばれています。この造礁サンゴがサンゴ礁を形づくる中心的な役割をはたしています。

サンゴ礁の地形



クイちゃん豆知識

サンゴはどれくらいいる?

日本にいるサンゴは約400種類で、そのうち380種以上が沖縄の海に住んでいます。その数は世界最大級のサンゴ礁であるオーストラリアのグレートバリアリーフにならぶほどといわれています。このサンゴたちの死骸などが積み積み、長い時間をかけてサンゴ礁は作られます。

沖縄の島々を取りかこむサンゴ礁は長い年月をかけて、生きたサンゴたちが作った自然の防波堤^{ぼうはてい}。高波をうちけして、より安全に海水浴ができます。また、サンゴ礁には多くの魚やタコ、カニなどが住んでいて、食卓^{しょくたく}に海の恵みを与えてくれます。沖縄のサンゴ礁の海について考えてみましょう。

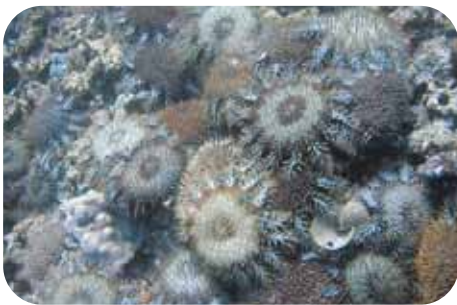
沖縄の海がかかえる問題

最近、沖縄のサンゴ礁は、白化やオニヒトデの大量発生^{たいりょうはっせい}、陸地からの赤土の流出^{りくち}など、さまざまな影響を受けて、造礁サンゴやサンゴ礁に住む生きものたちが減ってきています。そのおもな原因を見てみましょう。



白化するサンゴ礁

造礁サンゴは褐虫藻という植物と共生しています。褐虫藻が何らかの原因で造礁サンゴから逃げ出して、白くすけて見えることを白化といいます。30℃以上の高い水温が長い間続くと、造礁サンゴと褐虫藻との関係がくずれて、褐虫藻が逃げ出すと考えられています。褐虫藻が逃げ出したサンゴはやがて栄養不足^{えいようぶそく}で死んでしまいます。



オニヒトデに食べられるサンゴ

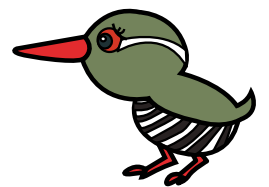
オニヒトデはサンゴを食べる動物として広く知られています。オニヒトデのトゲには毒^{どく}があり、敵から身を守っています。沖縄では1970年頃から80年代かけて、大量発生し、多くの造礁サンゴが食べられてしまいました。オニヒトデの大量発生^{たいりょうはっせい}の原因ははっきりとは分かっていませんが、人間活動の影響で大量発生する^{ぜつ}という説^{せつ}があります。



赤土で染まる海

沖縄県の大部分^{おおぶ}を覆う赤土（主に国頭マージ）と呼ばれる土は、粒が細かく、雨に削られやすいという性質を持っています。そのため雨が降ると農地や開発地から海に流れこみます。流れこんだ赤土は、造礁サンゴの上につもって呼吸^{しゅうま}を邪魔したり、海をにごらせて造礁サンゴに必要な光^{ひつよう}をさえぎるなどの悪い影響を与えます。

沖縄の美ら海が
あふないやっさー。



エコクイズ

沖縄の海について考えてみよう（正解を○で囲みましょう）

1. 沖縄の海に住むサンゴは（ア. 約100種 イ. 約380種）である。
2. オニヒトデはサンゴを（ア. 食べる イ. 守る）生きものである。
3. サンゴ礁に赤土が流れこむとサンゴが（ア. 死んでしまう イ. 元気になる）